

第 1 回商工観光専門委員会での主な意見

（産業振興）

- 地産地消の製造業版というか、地元の企業がアイデアを出し、地元の製造業が製造するといった事例があった。このようなことを行政的にも応援していけるのではないかな。
- 商工会議所も色々な取り組みを行っているが、全体的に結果がなかなか出ないのが現状である。企業立地についても、行政側でどのような条件を出すか、にかかっていると感じる。
- 地元で色々な特産品をつくっても、例えば柿ジュースは3年くらいかかって作られたものと聞いているが、お客様があまり知らないのが実情。お客様に対してのPRの仕方を今後どのようにしたらいいのか考えていきたい。
- 東北経済産業局では、職員がチームとなって各県を担当し、地域とのネットワークを築いている「地域サポーター」という体制があるので、この制度を活用してはどうか。
- 国の24年度補正予算や、25年度当初予算の中に、これまでなかなか縁のなかったような施策が非常に多く用意されており、この活用を地域の中で進めていただきながら、地域の発展を考えていければと思う。
- 企業誘致については、東北では宮城県を中心にした自動車産業の動きは非常に活発に動いているが、それ以外のところは難しい状況。地道な努力しかないという感じ。
- 新たな産業の創造という意味では、慶應の先端研究所が鶴岡にはあるので、今後も「スパイバー」に続くような企業が、さらに続くよう期待している。
- 進出企業の方と常に密接なパイプラインを作って、企業の声に地域としてもなるべく事業活動しやすいようにやっていくという姿勢を見せるというのも1つの方法。
- 地域の中堅企業は地域経済にとって非常に重要。鶴岡市独自の施策である「ものづくり補助金」は、企業の新商品・新技術の開発にとって大事である。
- 競争力ある企業の集積：バイオのみならず第二、第三の産業創成に向けて医工連携、材料、地域食材、IT分野などの技術開発と産業創成をより活発化させる施策が必要。
- 伝統産業の再構築と地場産業の振興：政府の科学技術イノベーション総合戦略にもあるが、農商工連携の拡大が重要と考えられる。アグリインフォマティクス技術の技術開発を積極的に進めるべきである。
- Kibiso ブランド化がうまく進んでいるように見受けられる。今後の拡大戦略が重要。

（商店街）

- 商店街振興は個店対策がいいのか商店街全体の事業計画がいいのか、お互いのバランスがあることであるが、グランドデザインが見えてこないところが今問題。
- TMOの域内周知度はどの程度か？市民への周知は十分か？HPアクセスなどの分析を活用すると良いのでは。
- 地元経営の店の明確な支援。庄内藩藩札のより有効な活用などのほか、個性のある店や地域の特性を持つ店だけではなく、同じような品物でも量販店より商店街の店で買

うことが地域の活気づくりにつながるという意識を広める。

- 意欲ある若者の創業支援。創業セミナーの開催などにとどまらず、事業の廃業を考えている店舗に新たなテナントを入れるための改修費支援制度などの仕組みづくり。
- 消費者や各種団体と連携した商店街を舞台としたイベント。商店街単独では限界があり、消費者や各種団体が商店街を舞台に行う活動を支援する。
- 商店街通りは店舗以外を規制、一階部分は店舗に限定するなど土地利用規制の制度化。

（雇用）

- 高専、高校の地元企業でのインターンシップを増やしていく施策が必要。企業への補助金、企業への交通手段の確保など。

（観光振興全般）

- 鶴岡市をどのような観光地にしたいのか、言葉ではなく形として、青写真みたいな感じで誰でも分かるようなものがあつたら非常に良い。

（観光メニューの充実）

- 地域内、県内からの集客も重要。家族や友人と気軽に宿泊できる工夫が集客数増加につながるのでは。

（人材育成・活用）

- 古い人は古きよき温泉地を思い描いているが、あつみ温泉では町ぐるみで、住民や旅館を巻き込んで変わっていかうというのがテーマとなっている。観光に最も大切なものは人づくりであると感じている。
- 鶴岡市は食や文化が売りの市であるが、子どもの数が減る中でそういうことを小さい頃から受け継いでいってくれる人材を、どのように育成するかが課題。
- 外国人観光客に学生ガイドのアルバイトを活用してはどうか。

（観光資源）

- 六十里越街道は世界遺産よりも良い、隠れた鶴岡市の資産である。市全体からもっと大事に、誇りにしてもらい、100年間続く観光資源として磨いてもらいたい。
- グリーンツーリズムはこれから拡大する分野だと考えられる。例えば毎年5月には、酒田市の飛島に探鳥の為、島内の旅館が満員になる程の客が主として関東から訪れる。鶴岡の自然をフューチャーした集客は十分可能。

（藤沢周平記念館）

- （旅館を営むものとして）藤沢周平記念館が月曜日ではなく、水曜日休館になったの

は大変ありがたく、お客様からも好評をいただいている。

（交通）

- 観光客向けの格安便利な交通手段は重要。

（他団体・民間の取組み）

- 商工会議所女性会「おもてなし事業」ではお昼を食べるところや、駐車場の案内等うまく説明できないところがあり、今後の課題と考えている。
- 商工会議所女性会の「おもてなし事業」を活用し、観光客への案内を一部の地域で終わらせず、周辺商店街にも足を運んでもらうような仕組みづくりを商工会議所、観光連盟と市に期待。
- 市管轄の観光施設の優待券等の情報を、必ずお客様にお声掛けしている。そうすることでお客様の心を動かしているのではないか。こういった小さなことの積み上げがとても大事であると思う。

（新産業会館）

- 新産業会館建設は 50 年に 1 度の大きなプロジェクト。既に決定したと聞いている民間のお土産屋、レストランに加え、「観光情報の発信や物産の紹介・販売機能」といった観点から、観光協会の事業とのマッチングができるのかどうか、よく考えていただきたい。
- 駐車場の台数、1 台の停める幅、バスの駐車スペース、宅配業者の搬入口・搬出口等、専門家の意見を聞いて進めてほしい。